



2024年5月10日

会社名 窪田製薬ホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役会長、社長兼最高経営責任者  
窪田 良  
コード番号 4596 東証グロース  
問合せ先 広報・IR部  
(TEL : 03-6550-8928 (代表) )

## ARVO (視覚と眼科学研究協会会議) 2024 年年次総会における登壇のお知らせ

窪田製薬ホールディングス株式会社(本社：東京都港区、以下「当社」)は、2024年5月5日から5月9日(現地時間)までワシントン州シアトル市で開催された「ARVO (視覚と眼科学研究協会会議) 2024 年年次総会」において、ジョスリン糖尿病センターのパオロ・S・シルバ博士から、当社の100%子会社のクボタビジョン・インク(本社：米国ワシントン州)が開発する在宅・遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器「eyeMO®」\*1に関する研究結果が発表されましたことをお知らせします。

ARVOは世界75か国以上、約12,000名の会員を擁する、眼科学の研究において世界的に権威のある組織です。本年年次総会では、「Comparison of the Portable Retinal Thickness Analyzer and Standard Spectral Domain Optical Coherence Tomography\*2 Retinal Thickness Measurements in Diabetic Eyes (和訳：糖尿病眼におけるポータブル網膜厚測定装置と標準的なスペクトルドメイン光干渉断層計による網膜厚測定の比較の評価について)」との発表演題で登壇しました。

ジョスリン糖尿病センターはハーバード大学医学部に付属している教育・研究機関で、世界的な糖尿病流行の最前線機関として研究と臨床ケア・教育における革新的なアプローチを通じて、あらゆる糖尿病の治療法の発見に注力しています。シルバ博士は、ジョスリン糖尿病センターのピーサム眼科研究所の眼科医であり、遠隔医療分野の共同責任者でもあります。2023年1月より「eyeMO」を用いた臨床試験を開始しており、糖尿病網膜症患者のスクリーニング装置として実用可能であるかの評価、および、市販のOCT装置と比較する2つの臨床試験を実施しております。シルバ博士の研究は、臨床医療とテクノロジーが交差する分野における革新的かつ調査的な研究に重点を置いており、エビデンスに基づく効果的な糖尿病眼科医療を最適に提供するべく、理想的な実用モデルを目指しています。

本件について、シルバ博士は次のようにコメントしています。

「我々が実施しているポータブルOCTデバイス(eyeMO)を使った臨床試験研究から、本機器が自宅で糖尿病性黄斑浮腫をスクリーニングする有効なツールとしての可能性を強調しています。今後の改良と検証が、糖尿病性網膜症の遠隔モニタリングにおける効果をさらに高めるでしょう。」



“The study highlights the potential of the portable OCT device as a viable tool for at-home screening of diabetic macular edema. The continued refinement and validation will further enhance its effectiveness in remote monitoring for diabetic retinal disease.”

本件について、当社の代表取締役会長、社長兼最高経営責任者の窪田良博士は次のようにコメントしています。

「医師主導の研究において、糖尿病性黄斑浮腫のスクリーニングについても「eyeMO」が有効であるという可能性が見出されたこと、またそれをシルバ博士自ら、ARVO で発表していただけたことを大変嬉しく思います。「eyeMO」に用いている VCSEL レーザーは、スマートフォン等へ応用されたことをきっかけに、より低価格化が実現した技術です。我々が持つ、VCSEL レーザーを眼科検査に応用する特許技術は、今後も、様々な研究機関・企業と協力関係を維持しながら、開発を進めてまいります。」

\*1 「eyeMO」は在宅・遠隔眼科医療用網膜モニタリング機器 PBOS (Patient Based Ophthalmology Suite) の商品名です。 ([2023年12月6日](#)付プレスリリースより)

\*2Optical Coherence Tomography (OCT) は光干渉断層計という網膜の断層画像を撮影する検査機器のことで、網膜疾患や黄斑部の病変の診断で使われます。

## eyeMO とは

高齢化が進む中で、今後はインターネットの普及に伴って遠隔医療分野が充実することが見込まれます。重度の網膜疾患においては、薬剤を1ヶ月あるいは2ヶ月ごとに繰り返し眼内注射で投与することが多く、最適なタイミングでの治療の実現が課題になっています。当社では、ウェット型加齢黄斑変性や糖尿病黄斑浮腫等の網膜疾患の患者が、在宅あるいは遠隔で網膜の状態を測定する超小型モバイルOCTの開発をしています。現在は、米国食品医薬品局 (FDA) 未承認の治験用医療機器として臨床試験を実施しております。インターネットを介して、網膜の構造の変化といった病状の経過を、医師が遠隔で診断できるシステムを確立することにより、個々の患者に最適な眼科治療の実現を目指します。

## 窪田製薬ホールディングス株式会社について

当社は、世界中で眼疾患に悩む皆さまの視力維持と回復に貢献することを目的に、イノベーションをさまざまな医薬品・医療機器の開発及び実用化に繋げる眼科医療ソリューション・カンパニーです。当社100%子会社のクボタビジョン・インク (米国) が研究開発の拠点となり、革新的な治療薬・医療技術の探索及び開発に取り組んでいます。現在は、ウェアラブル近視デバイス「クボタメガネ」および、在宅・遠隔医療分野 (モバイルヘルス) における医療モニタリングデバイス「eyeMO®」などの医療機器開発に注力しております。

(ホームページアドレス : <https://www.kubotaholdings.co.jp>)

## 免責事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実



際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定(一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません)に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。

以上